

## 令和3年度 第70回山形県自作視聴覚教材コンクール

### 全体講評【児童生徒作品部門】

歴史に目を向け、地域の文化を見直し、未来につなげようとした作品が多くあり、子どもたちが意欲的に制作に取り組んだ様子が伝わってきた。自分たちの住む地域の良さや大切にしたいもの等、地域を愛する心が育っていると感じられた。

特に生活の中で発見した疑問に自ら立ち向かい表現していた作品は素晴らしかった。大石田の「地域で作成したカルタを利用した中学生が作った作品」のもとになった「大石田かるた」は、まさに視聴覚教材として素晴らしい働きをした「真の視聴覚教材」であると言える。また現代的な課題に目を向けた作品が高校生から出品され、頼もしく感じられた。

一方で「視聴覚教材」ということで誰にとっての教材になるかという「相手意識」を明確にした内容や構成にするとさらに良くなる作品もあった。また効果的な表現にするためには、ただ情報が多ければ良いとは限らない。時にはあえて情報を少なくしてみる工夫も必要である。さらに、はっきりとした言葉づかいや読む速さを考え練習した上でナレーションを入れるとさらに良くなるものがあった。

タブレットが一人一台の時代になり、映像を作り仲間と見る時代になった。小学生でも大人のを借りずに自分で作品を作るという新しい文化の入り口にいるのではないか。今後、自分で教材を作ろうとしている意欲的な子どもたちの作品に期待していきたい。